

東京大学 駒場コミュニケーション・プラザ

The University of Tokyo, Komaba Communication Plaza

No. 05-009-2010更新

新築
学校

発注者	国立大学法人 東京大学	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN + 類設計室	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	鹿島建設	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

歴史あるキャンパスの景観と自然環境を継承する

歴史あるキャンパスの新たな交流空間

東京大学のPFI事業として計画された駒場コミュニケーション・プラザは、「開かれた大学」の理念の具現化を目指し、快適なキャンパスライフに寄与する福利厚生施設、学内外交流の教育研究施設として計画された。既存樹木の緑を活かしながら広場を囲むように配置され、周辺環境と調和した居心地のよい外部空間を創出。歴史を継承し、コミュニケーションの拠点として、キャンパスの新しい顔にふさわしい場として利用されている。

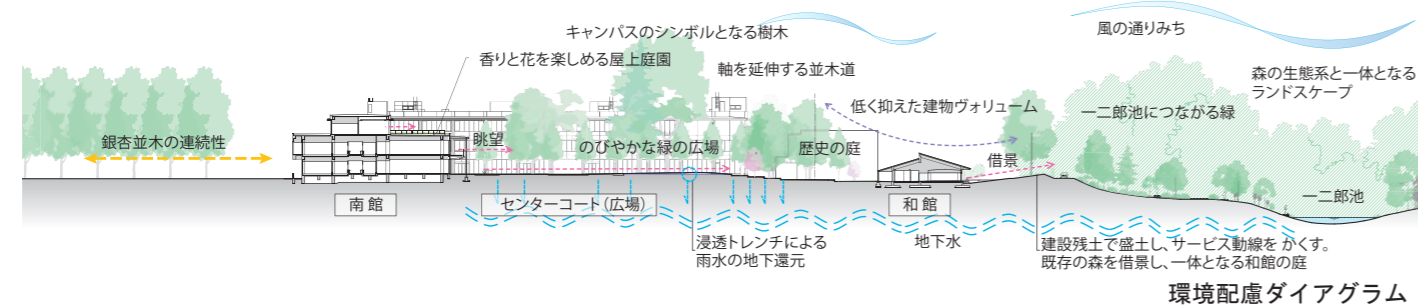
- ・周辺景観・環境の配慮：外構・屋上を積極的に緑化、既存樹木は可能な限り保存、移植。
- ・アメニティ空間：中庭を深い庇と細い柱の回廊空間で囲み、開かれた快適な外部空間を創出。
- ・熱負荷低減：深い庇の設定で日射制御、高性能ペアガラスの採用で熱負荷低減
- ・自然エネルギーの活用：エコシャフト、バルコニー開口による自然換気、自然採光、雨水中水利用、太陽光発電。
- ・設備システムの高効率化：照度センサー・自動調光、人感センサーon-off制御で、照明電気を削減。GHP採用によるLCC低減。
- ・施工関連環境配慮：場外搬出土、建設廃材の削減：外構レベル計画による盛土調整実施、場外搬出土量を削減、床型枠フラットデッキ使用、既製PC杭採用等、極力建設廃材を削減
- ・キャンパスの歴史を継承する試み：旧ポルティコの壁を一部保存したモニュメント設置、歴史ギャラリーでの駒場の歴史展示、旧駒場寮の柱配置を示すLED照明設置



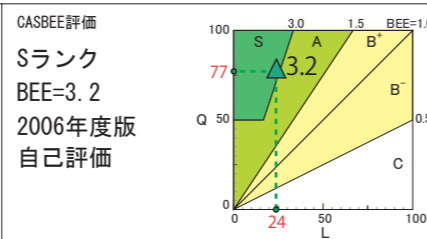
銀杏並木から中庭へ導くエントランスゲート



キャンパスの歴史と深い自然を感じる中庭空間



建物データ	
所在地	東京都目黒区
竣工年	2006年
敷地面積	253,174 m ²
延床面積	9,814 m ²
構造	RC造、一部S造
階数	地下3階、地上1階



地域の自然環境への配慮

駒場キャンパスは武蔵野台地上に位置し、周辺には代々木公園、明治神宮、新宿御苑などのまとまった緑が連続している。こうしたキャンパスの豊かな自然環境が高密な首都圏において貴重なものであることを考慮し、できる限り既存樹木を保存し、切盛土を少なくし環境に対する付加を最小限に抑えた計画としている。また屋上緑化、風の通り抜けにも配慮し、敷地内に降った雨水は浸透枳、浸透トレンチ、浸透性舗装材を使用して極力地中に浸透させる計画としておりCASBEE・CASBEE-HIではSランクを実現、地球環境にも優しい計画としている。

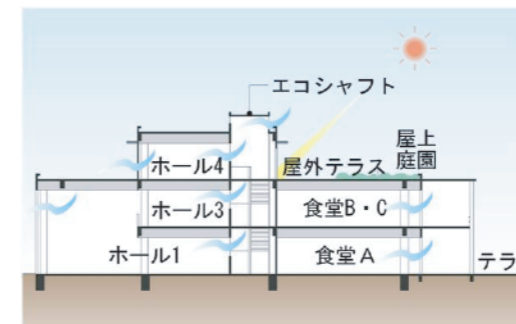
旧駒場寮の歴史を記憶する既存樹木は可能な限り保存し、緑豊かなキャンパス景観のシンボルとして活用している。計画上保存が不可能な位置の樹木については、できる限り出来る移植を行い、地域植生を保全する計画としている。

歴史を伝承する試み

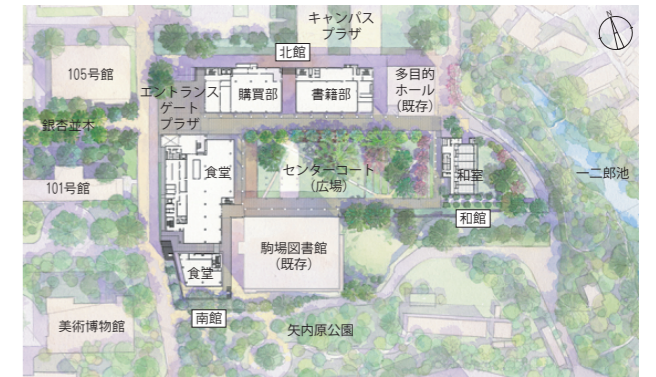
旧制一高以来の歴史を刻んできた駒場寮の歴史を継承する試みとして、寮入口ポルティコの一部を切断し、モニュメントとして広場に移築した。さらに、駒場の歴史を南館西側歴史ギャラリーに展示、旧中寮柱配置を写した太陽光発電利用のLED発光装置を広場内に設置している。

エコシャフトによる自然換気

北館の階段室や南館北側の吹抜けを利用したエコシャフトは、煙突効果による重力換気を最大限利用できる計画とした。窓開けによる通風・換気により中間期には自然換気量を十分確保可能で、空調エネルギーなどランニングコスト低減にも寄与している。



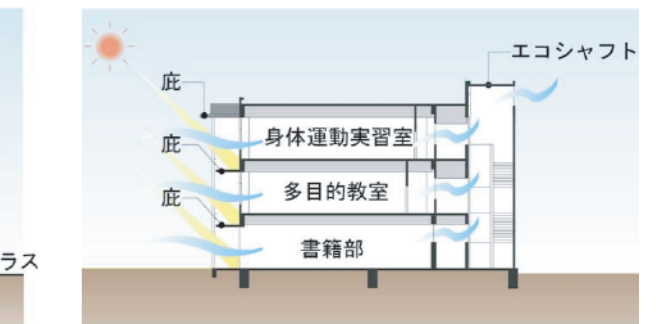
南館



配置図・1階平面図



既存樹木を保存した広場



北館

庇による日射コントロール

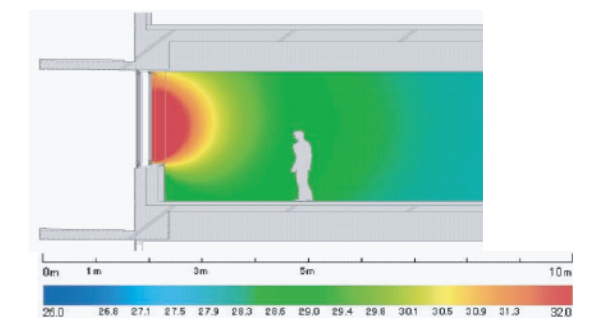
エントランスゲート上部と北館南側には深い庇を設定し、日射をカット、空調負荷軽減を果たした。同時に、大開口による眺望確保を実現し、施設計画のコンセプトである透過性によるコミュニケーション醸成を最大限に実現した。

設計担当者

統括/松崎健二
 建築/鹿島 宮崎長志、小野和幸、小林久剛、小川清則、藤田勝浩、(類設計室) 庄恵三、野田雄二
 構造/小川浩、井手文雄、
 設備/橋本洋、太田忠彦、木部晴仁
 外構(協力)/ (株)ランドスケープデザイン 小池孝幸、福田恵

主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（外構緑化、既存樹木の保全、屋上緑化）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（キャンパス環境との調和、駒場の歴史性の継承、新たなシンボルの形成）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（豊かな中間領域の形成、大学・地域に開かれたアメニティ空間の創出）
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制（高性能ペアガラスの全面採用、庇の深い出で日射制御）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（エコシャフト、自然通風、自然換気、太陽光発電LED照明、雨水利用）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（LED照明、照明センサー制御、GHP採用によるランニングコスト低減）



庇による温熱環境シミュレーション